

株主の皆さまへ

第 32 期 報 告 書

2009年4月1日から2010年3月31日まで



株主の皆さまへ

ご挨拶

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な不況からの出口を探る、いわゆる「危機後」の展開を模索する状況が続きました。また、国内市場の成長鈍化を見越して海外市場への活路を求める動きが目立ち、新興国市場への関心がさらに高まった一年でもありました。

半導体業界におきましては、上半期は引き続き厳しい状況が続きましたが、下半期には状況が一変し、最終製品の旺盛な需要に各国の景気刺激政策が相乗効果をもたらし、各メーカーにおきましても積極的な設備投資が行われました。

このような状況のもと、当社グループでは、半導体市場が本格的に回復するまでの間は徹底した固定費のコントロールを実施し、前期比大幅な固定費削減を実現するとともに、年度後半には市況の本格的な立ち上がりを的確に捉え、操業短縮を打ち切る等、急増する受注にも即応してまいりました。

しかしながら、当期につきましては当期純損失を計上することとなりましたため、株主の皆さまには大変申し訳ございませんが、期末配当金を見送りとさせていただくことといたしました。

当社グループは、株主の皆さまへの利益還元を重要施策の一つとして考えており、そのご期待に報いるべく、グループ一丸となって財務の安定化を図るとともに、さらなる収益の改善に向け邁進していく所存でございます。

今後とも、何卒一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

西村 永和

代表取締役会長

坂東 和彦

2010年6月

概況と今後の見通し

半導体メーカー各社の極端な在庫調整により、厳しい事業環境が続いておりましたが、中国市場をはじめとした最終製品の需要が旺盛なことから、足許の市況は好況期とほぼ同水準にまで回復しております。半導体市場は当面、順調な拡大を続けるものと思われ、新しく事業の柱となりつつあるLED事業の伸張と併せて、当社の業績は、大幅な回復が見込まれる状況にあります。

しかしながら、半導体市場の変動幅は大きく、その間隔も年々短くなっていることから、中期経営計画にて定めた各戦略を着実に実行し、安定した収益体制を構築するべく、今後とも積極的に取り組んでまいります。

なお、2010年3月期の業績は、売上高142億74百万円（前連結会計年度比26億96百万円、23.3%増）、経常損失3億45百万円（前連結会計年度は経常損失36億77百万円）、当期純損失3億30百万円（前連結会計年度は当期純損失41億63百万円）となりました。

お客様のニーズに即応できる技術開発型の企業へ

半導体設備投資が台湾を中心に回復基調に転じ、半導体メーカー各社の最大のニーズである生産コスト削減に合致した新製品「PMC」（半導体樹脂封止装置）や「LCM」（LED樹脂封止装置）の受注も順調に推移する中、当社は業況回復後の新たな経営体制を若手中心に構築すべく、体制を刷新いたしました。

今回の組織改革により、社内の活性化を図るほか、新たに担当役員制を導入し営業本部・開発本部・坂東記念研究所を1名の取締役が統轄する等、お客様のニーズに即応できる技術開発型の企業を目指してまいります。財務面におきましても、徹底したキャッシュ・フロー重視の経営を行うことで、有利子負債の圧縮をはじめとした体質改善にスピードをあげて取り組んでまいります。

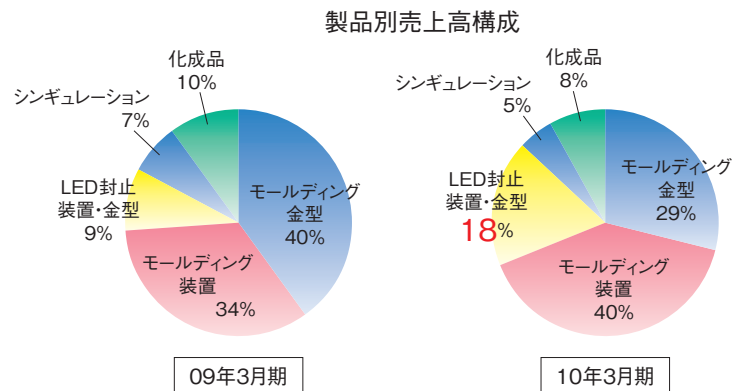
また、製品のさらなる市場競争力強化を課題とし、「モノづくり」の原点である良い製品をタイムリーに提供できるよう、生産工程や品質管理の改革を進め、さらなる顧客満足と品質の向上、原価低減を進めてまいります。

＝基本方針＝

現代社会において不可欠な存在である半導体のさらなる進化に対応し、産業界が求める「技術開発」を根幹にした事業展開を行うことで、クォーター・リードに徹した「新製品・新商品」を市場に提供することを基本方針としております。お客様ならびに株主の皆さまが安心・満足される事業活動を行い、さらなる経営の可視化に努めてまいります。



地球の未来を考えたLED封止のベストソリューション



半導体市場は当面順調に拡大を続けるものと予想され、増産や新しいパッケージに対応する更新設備投資等、各半導体メーカーの投資意欲は引き続き旺盛に推移するものと思われます。LED市場については液晶テレビやノートパソコンのバックライト用途はもちろん、照明への採用が本格的にはじまり、さらに市場拡大が予想されます。

当社は既にコンプレッション・モールド方式の新製品を市場投入しており、半導体モールドング市場では、さらなる市場シェアアップを実現できるものと考えております。

また、LED事業におきましては、他社にない当社の精密金型と封止技術を用いた一括成形のメリットを存分に発揮し、これまでの半導体事業で培われた高い技術力を積極的に横展開することで、LED封止分野においてもリーディングカンパニーの地位を確固たるものとしてまいります。

好調なLED樹脂封止装置「LCM」

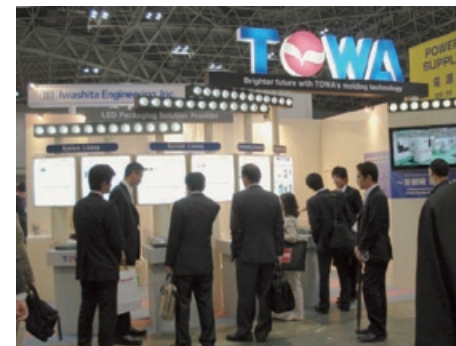
環境への配慮等からLED需要が急速に拡大する中、最先端の半導体パッケージ向けに開発したコンプレッション・モールド方式をLEDの樹脂封止工程に応用した「FFT」や「LCM」は、LEDメーカーや電機メーカーから大変ご好評をいただいております。

「FFT」によって生産された高輝度LEDが各社LED電球に採用され、テレビをはじめとする液晶バックライトの分野では、当社製モールドによるLEDパッケージが続々と搭載されています。

これからも、TOWA独自の高度複合技術で、最先端の技術価値を提供し続けてまいります。



次世代照明 技術展 —ライティング ジャパン— 出展



2010年4月14日～16日、東京ビッグサイトで開かれた「次世代照明 技術展—ライティング ジャパン—」に出展いたしました。LEDパッケージの需要はますます増大しており、TOWAの精密金型と圧縮モールド技術による、レンズを一括で成形する手法は、液晶バックライトをはじめ、照明用などのLEDパッケージに採用され業界標準となりつつあります。高精度で効率的な生産が実現可能な、TOWAの圧縮モールド技術に対する期待も大きく、大変多くのお客さまにご来場いただきました。また、当社の技術開発動向やお客さまのご要望に応じた取り組みに対して、高い評価をいただくことができました。

個人投資家向け IR会社説明会を開催

2009年9月、内藤証券主催の個人投資家セミナー、2010年3月には野村證券京都支店にてIR会社説明会を開催いたしました。個人投資家の皆さまに「京都の企業であるTOWA」の事業や今後の方針・戦略について、ご説明させていただきました。当社の企業文化を感じていただけるよう、こうした会社説明会をはじめ、今後も様々な活動を展開してまいります。



「京都 知恵と力の博覧会」にて 黄金の瓦を公開

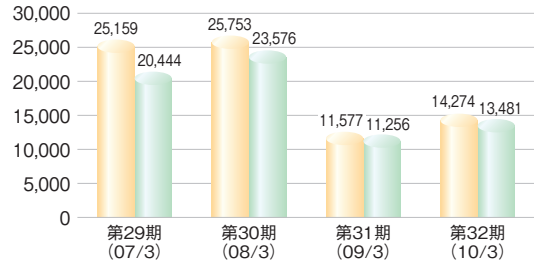
2009年10月～12月の間、オール京都で取り組む「京都 知恵と力の博覧会」が開催されました。このイベントに協賛して、当社では本社6階に展示している「黄金の瓦」を公開しました。



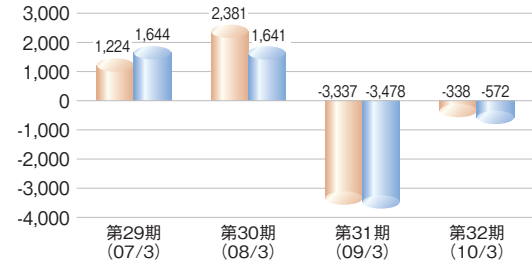
当社はグループ総力をあげて、株主さまをはじめとするステークホルダーの皆さま方に、一層の信頼とご満足いただけるよう、企業価値向上に向けて取り組んでまいります。

業績の推移

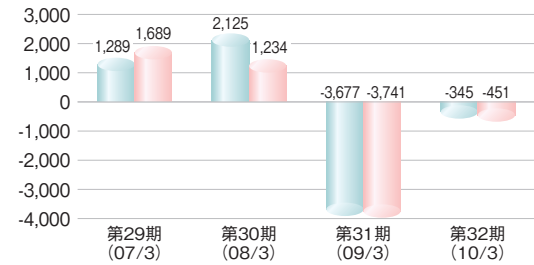
売上高 (単位:百万円)



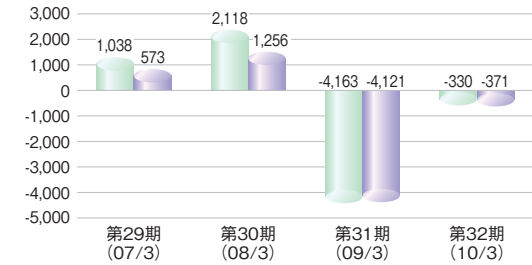
営業利益 (単位:百万円)



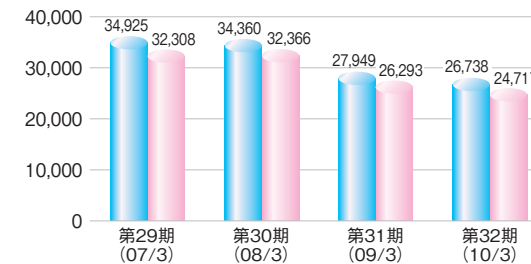
経常利益 (単位:百万円)



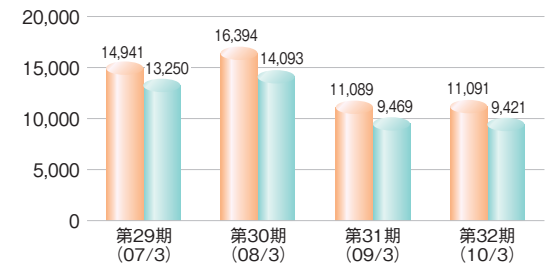
当期純利益 (単位:百万円)



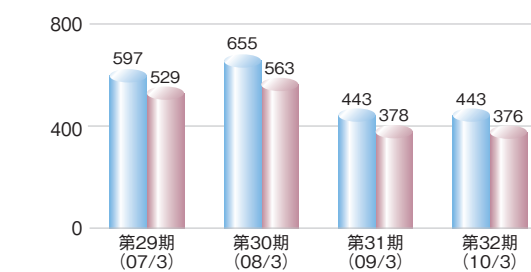
総資産 (単位:百万円)



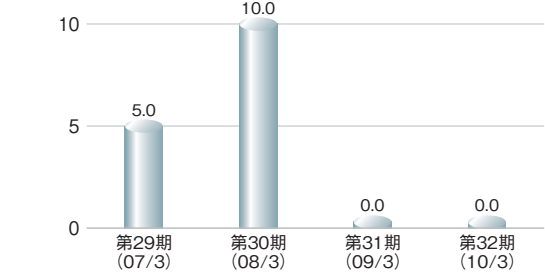
純資産 (単位:百万円)



1株当たり純資産額 (単位:円)

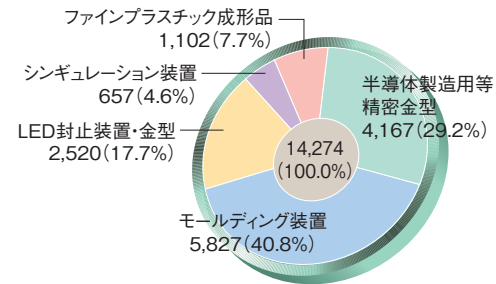


1株当たり配当金 (単位:円)

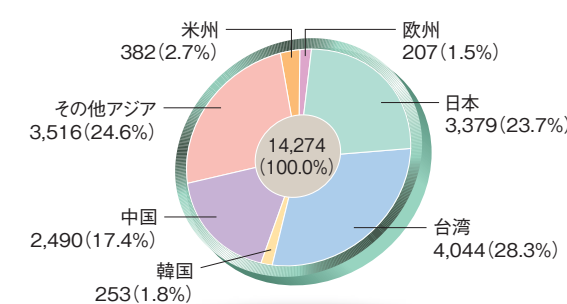


[セグメント別連結売上高 (第32期)]

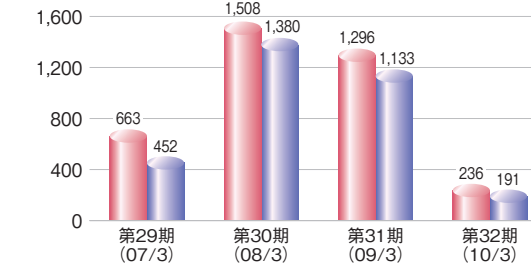
■製品別 (単位:百万円)



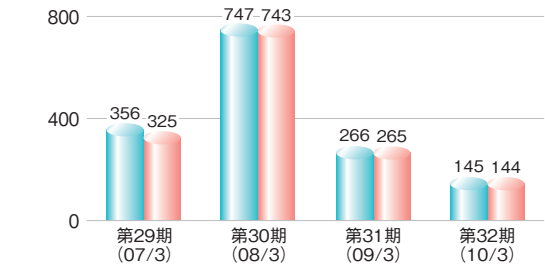
■地域別 (単位:百万円)



設備投資 (単位:百万円)



研究開発費 (単位:百万円)



業績の推移

決算概要

連結貸借対照表 (2010年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額
【資産の部】	
流動資産	12,545
現金および預金	3,896
受取手形および売掛金	5,622
たな卸資産	2,806
その他	219
固定資産	14,193
有形固定資産	10,369
建物および構築物	4,280
土地	4,232
その他	1,856
無形固定資産	1,149
投資その他の資産	2,674
資産合計	26,738

(注) 当期の連結子会社は11社、持分法適用会社は4社であります。

連結損益計算書

(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
売上高	14,274
売上原価	11,189
売上総利益	3,084
販売費および一般管理費	3,423
営業損失	338
営業外収益	455
営業外費用	462
経常損失	345
特別利益	202
特別損失	142
税金等調整前当期純損失	285
法人税、住民税および事業税	53
法人税等調整額	△ 9
当期純損失	330

科目	金額
【負債および純資産の部】	
流動負債	10,516
支払手形および買掛金	2,042
短期借入金	5,586
その他	2,887
固定負債	5,130
長期借入金	4,159
その他	971
負債合計	15,647
株主資本	11,240
資本金	8,932
資本剰余金	462
利益剰余金	1,853
自己株式	△ 7
評価・換算差額等	△ 149
その他有価証券評価差額金	406
為替換算調整勘定	△ 555
純資産合計	11,091
負債・純資産合計	26,738

連結キャッシュ・フロー計算書

(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,494
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 290
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,733
現金および現金同等物に係る換算差額	△ 32
現金および現金同等物の増減額	△ 562
現金および現金同等物の期首残高	4,399
現金および現金同等物の期末残高	3,836

連結株主資本等変動計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2009年3月31日 残高	8,932	3,115	△ 468	△ 7	11,571
連結会計年度中の変動額					
資本準備金取崩し		△ 2,652	2,652		—
当期純利益			△ 330		△ 330
自己株式の取得				△ 0	△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 2,652	2,322	△ 0	△ 330
2010年3月31日 残高	8,932	462	1,853	△ 7	11,240

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
2009年3月31日 残高	82	△ 563	△ 481	11,089
連結会計年度中の変動額				
資本準備金取崩し				—
当期純利益				△ 330
自己株式の取得				△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	323	8	332	332
連結会計年度中の変動額合計	323	8	332	1
2010年3月31日 残高	406	△ 555	△ 149	11,091

会社の概要

商号	TOWA株式会社 (英文名TOWA CORPORATION)			
設立	1979年4月17日			
資本金	8,932,627,777円			
本社所在地	京都市南区上鳥羽上調子町5番地 ☎(075) 692-0250 (代表)			
従業員数	460名			
役員 (2010年6月29日現在)	代表取締役会長	坂東和彦	取締役副会長	河原洋逸
	代表取締役社長	西村永和	専務取締役	岡田博和
	常務取締役	福田富誠	執行役員	小西久二
	執行役員	石田耕一	執行役員	渡邊隆一
	執行役員	岸本昌利	執行役員	浦上浩利
	執行役員	寺内利茂	執行役員	宮川司
	常勤監査役	大崎清	監査役	杉山公克
	監査役	梅山	監査役	梅山
ホームページ	http://www.towajapan.co.jp			
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部			

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月
基準日	株主総会権利行使および期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市北区曽根崎二丁目11番16号 みずほ信託銀行株式会社大阪支店証券代行部
郵便物の郵送先	〒168-8507東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社証券代行部
電話お問合せ先	☎0120-288-324 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL (http://www.towajapan.co.jp)

！ご注意！
特別口座に登録されている株式は、単元未満株の買取り以外の株式売買ができません。
特別口座をお持ちの株主さま、株券電子化前に名義書換をされていないご本人名義以外の株券をお手元にお持ちの株主さまは、特別口座の口座管理機関であるみずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。

株式の状況 (2010年3月31日現在)

●発行可能株式総数	80,000,000株
●発行済株式の総数	25,021,832株
●株主数	10,297名
●大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	2,255 千株	9.0 %
(有) ケ イ ビ ー 恒 産	2,000	8.0
資産管理サービス信託銀行(株)	1,821	7.3
坂 東 和 彦	1,545	6.2
日本マスタートラスト信託銀行(株)	956	3.8
(株) 京 都 銀 行	699	2.8
山 田 矩 規 子	584	2.3
(有) ケ イ ビ ー テ ク ノ	500	2.0
バンクドルクセンブルグ クライアントアカウント	470004	1.4
坂 東 敬 子	320	1.3

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)および資産管理サービス信託銀行(株)の持株数は、下記株主名義の所有株式数の合計でもって表示しております。

日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,230,500株	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口1)	121,900株
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口6)	156,200株	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口8)	120,900株
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口3)	155,800株	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	89,000株
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口2)	136,800株	資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	734,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	122,400株	資産管理サービス信託銀行(株)(年金信託口)	513,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口7)	122,000株	資産管理サービス信託銀行(株)(年金特金口)	365,000株
		資産管理サービス信託銀行(株)(信託A口)	202,400株
		資産管理サービス信託銀行(株)(信託B口)	5,000株
		資産管理サービス信託銀行(株)(金銭信託課税口)	1,000株

TOWAグループ

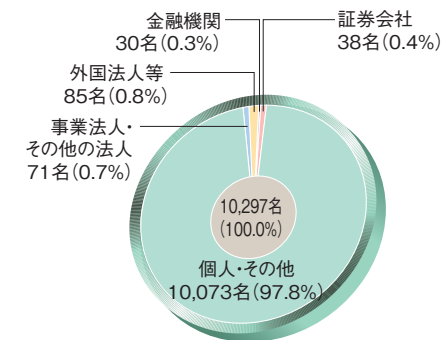
国内

TOWA株式会社
本社・工場
京都東事業所
坂東記念研究所
九州事業所
東京営業所
株式会社バンディック
TOWATEC 株式会社
TOWAサービス株式会社
株式会社サーク

海外

TOWA Asia-Pacific Pte. Ltd. (シンガポール)
TOWAM Sdn. Bhd. (マレーシア)
TOWA Semiconductor Equipment Philippines Corporation (フィリピン)
TOWA America Corporation (米国)
TOWA Europe GmbH (ドイツ)
東和半導体設備(上海)有限公司 (中国)
上海沙迪克軟件有限公司 (中国)
TOWA半導体設備(蘇州)有限公司 (中国)
蘇州STK鑄造有限公司 (中国)
台湾東和半導体設備股份有限公司 (台湾)
巨東精技股份有限公司 (台湾)
SECRON Co., Ltd. (韓国)
株式会社東進 (韓国)

所有者別株主数分布



所有者別株式数分布

